



令和6年度 入賞作品集



「わたしのふるさと」作文・絵画

中学生広場「私の思い 2024」作文

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」

(家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター



彦根市青少年育成市民会議

彦 根 市

彦根市教育委員会

ご あ い さ つ

彦根市青少年育成市民会議
会 長 林 治

平素は、青少年の健全育成に格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

令和6年は1月の石川県能登半島地方を震源とする地震、9月には同じく能登半島で発生した記録的大雨と大きな災害がありました。災害が起こるたびに、私たちはその時どう行動すべきかを考えさせられ、地域での助け合い、人と人とのつながりの大切さを痛感します。幸いにもここ彦根市は大きな災害に見舞われることなく、日常生活が送れていますが、いざという時につながれる地域社会でありたいと思います。

さて、彦根市青少年育成市民会議とは14の小学校区と稲枝地区の計15の青少年育成協議会の代表が集まり、市から委託された「『子ども110番の家』推進事業」や「初発型非行防止巡回活動」等、青少年の健全育成を願い、活動している団体です。また、「中学生広場『私の思い2024』」作文、「わたしのふるさと」作文・絵画、「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」作文・絵画・ポスターの募集を関係機関のご協力を賜りながら行っております。1月の「青少年健全育成フォーラム」では、作文・絵画・ポスターの表彰や作文発表、絵画・ポスターの作品展示を行い、子どもたちの思いを発信しました。青少年は、家庭と地域と学校で、見て聞いて体験して自ら育っています。ふるさとの自然、家庭での生活、地域と学校での異年齢・同年齢の人々との活動など、全てが成長に必要な物事だと思います。子どもたちの素直な作品に触れ、改めて感じているところです。

彦根市青少年育成市民会議では、「地域の子どもは、地域で守り、育てましょう」のスローガンのもと、関係機関・団体との連携を図りながら、地域における青少年の健全育成、青少年にふさわしい環境づくりなどに向け、さらに効果的な運動を展開していくことに努めます。市民の皆様には引き続いてのご協力とご支援をお願い申し上げます。まして、ごあいさつとさせていただきます。

は　じ　め　に

彦根市長　和田　裕行

2025年秋、「わたSHIGA輝く　国スポ・障スポ」が大会愛称である国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が滋賀県で開催され、本市は正式競技において国スポ5競技、障スポ2競技の開催地になっています。この地で、選手だけでなく、大会に関わるすべての人が様々な場面で輝き、夢や感動、連帯感を共有し、明日への活力、未来への希望として引き継がれることを願っています。

さて、少子化が問題とされる中、子どもの貧困に関する問題、ヤングケアラーやひきこもりの若者など、子どもたちを取り巻く環境はますます厳しい状況になりつつあり、もはや、家庭だけ、学校だけでは改善できません。家庭、学校、地域、そして市民一人ひとりがそれぞれの役割を果たし、未来を担う子どもの心豊かな成長を市民総ぐるみで見守っていく必要があります。

本市では、青少年健全育成に向けた取組の一つとして、昭和57年より小・中学生から作文を募集し、発表の機会を設けてきました。今年度で「わたしのふるさと」作文は39回目、中学生広場「私の思い2024」作文は27回目を迎えました。また、「わたしのふるさと」絵画は15回目、「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」(家族ふれあいサンデー推進運動)絵画・ポスターは34回目となり、いずれも多くの学校で取り組んでいただき、大変うれしく思っております。

「わたしのふるさと」作文・絵画では、家族とのふれあいや、地域の人々との交流などを通して、子どもたちが自分たちの住む地域のすばらしさに気付き、ふるさとを再発見し、表現するよい機会となっています。また、中学生広場「私の思い2024」作文では、中学生が自らの意思や決意を表現しており、未来に向けてたくましく行動し実践していく姿が思い浮かびます。さらに、「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」絵画・ポスターは、家族の心のふれあいや温かさをテーマにした作品がたくさんあり、家庭の大切さについて改めて考えさせられるものとなっています。

収録しました子どもたちの生き生きとした作品に触れていただき、今後とも、子どもや若者へのご理解を深めていただきますとともに、青少年健全育成の活動にますますご支援いただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、作文ならびに絵画の指導や審査にご協力いただきました先生方、また、子どもたちをいつもあたたかく見守り、日々向き合っておられる保護者の皆様、そして地域の皆様に心からお礼申し上げます。

も く じ

「わたしのふるさと」作文

特 選

本じょう町にあるてんぐの木	稲枝西小学校	3年	山本 悠嵐	1
私の学校の伝とう行事	旭森小学校	4年	上川 琉花	2

入 選

あのベンチ	稲枝東小学校	2年	吉田 星菜	3
みんなの彦根	金城小学校	3年	堀 咲恵	4
小泉町の伝統	城南小学校	6年	松嶋 由華	5

中学生広場「私の思い 2024」作文

特 選

私のランドセル	東中学校	1年	江口 果凜	6
ぼくはこういう話し方やねん	西中学校	1年	成宮 太智	8

入 選

笑顔のちから	南中学校	1年	石橋 明莉	9
支えてくれている人への感謝	中央中学校	2年	安井 瑞希	10
感謝の気持ちを忘れずに	西中学校	3年	北原 怜和	11
自分らしく生きるために	鳥居本中学校	3年	小崎 愛音	12

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」(家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター

特 選

かぞくていったプール	河瀬小学校	1年	寺居 凜風	13
家ぞくと夏まつり	金城小学校	3年	北村 紗菜実	13
家族と刻む 私のメモリー	西中学校	3年	門池 菜々美	13

入 選

わたしのだいすきなかぞく	河瀬小学校	1年	形部 里紗	14
プールに行ったよ	城西小学校	2年	菊本 遥日	14
ぼくの夏休み	城南小学校	3年	新子 大惺	14
ぼくの家族のあったかい食たく	金城小学校	4年	上坂 玲葵	15
家族で一緒に食べるとおいしい	西中学校	3年	西村 珠里	15
あたたかい未来のためにもっと話そう	鳥居本中学校	3年	魚住 咲月	15

「わたしのふるさと」 絵画

特 選

高宮の花火大会	佐和山小学校	2年	寺村 拓海	16
けやき道	城南小学校	3年	西山 梨央	16
真夏の南彦根駅	城南小学校	6年	山田 淳紘	16
私の通学路	稲枝中学校	1年	伊藤 二胡	16

入 選

カラフル ひこねじょう	旭森小学校	1年	中野 咲希	17
十王村の水に住む梅花藻と生き物たち	城南小学校	2年	木村 迅杜	17
かがやく びわ湖	城東小学校	4年	國枝 奈乃葉	17
楽しみな夏祭り	稲枝西小学校	4年	大塚 龍心	17
芹川から見る夕日	城西小学校	5年	毛利 優太	18
赤玉神教丸	鳥居本小学校	5年	小嶋 寧々	18
ふるさとの川	稲枝中学校	1年	脇阪 瑠那	18
思い出の花しょうぶ通り	西中学校	3年	杉本 ちひろ	18

佳作入賞者一覧	19
審査員紹介	20



<作品応募状況>

	参加小学校	参加中学校	応募数
「わたしのふるさと」作文（小学校）	10校		29編
中学生広場 「私の思い2024」作文		7校	38編
「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」 絵画・ポスター	14校	4校	小学校 66点 中学校 19点 計 85点
「わたしのふるさと」絵画	14校	2校	小学校 62点 中学校 8点 計 70点

わたしのふるさと 作文

<特 選> 本じょう町にあるてんぐの木

彦根市立稲枝西小学校 3年 山本 悠嵐

ぼくは、ひこね市本じょう町に住んでいます。近くに住んでいるおじいちゃんとおばあちゃんといっしょに、おさんぽに行った時に、本じょう町につたわるてんぐの木のことを聞きました。そして、てんぐの木を見に行きました。さいしょに聞いた時は、本当にてんぐの木があるのかなと思いました。

てんぐの木は、くるみじん社の近くの森にありました。てんぐの木は、分かりやすいようになわでかこんでありました。ぼくが思っていたよりも、とても大きな木でした。ぼくは、てんぐの木を見て、てんぐは、本当にいるのかなと思いました。

てんぐの木は、もともとおしろがたってあった場所だったそうです。そのおしろをつぶした時に、てんぐの木は植えられたそうです。けれど、そのてんぐの木は、かれてしまって、もう一回植えられた木が、今のてんぐの木だそうです。

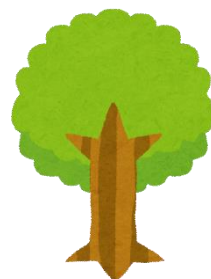
三年生になって、そうごうの学習で、はえみのおたからについて調べました。ぼくは、てんぐの木について学校のクラスみんなにしょうかいしました。友だちが、てんぐの木を見に行ってみたいと言ってくれて、うれしかったです。

夏休みには、てんぐの木の絵をかきました。もう一どてんぐの木を見に行き、しゃしんをとって、しゃしんを見ながら

かきました。えだを拾って来て、えだに絵の具をつけて、スタンプをおすようにしてかきました。てんぐは、おじいちゃんに、本じょう町につたわるてんぐのお面のしゃしんを見せてもらって、それを見てかきました。てんぐが、かっこよくかけてうれしかったです。また、くるみじん社の鳥いも見に行って、しゃしんをとって、それを見て、かきました。じん社の鳥いを見て大きいなと思いました。がんばってかいたので、いい思い出になりました。

ぼくは、てんぐの木について知らないことがまだまだあるので、いつ植えられたのかや、おしろがどんなおしろだったのか見てみたいです。てんぐのお面も、じっさいに見てみたいです。くるみじん社についても調べてみたいです。

本じょう町のてんぐの木がいつまでもかれずにいてほしいです。



<特 選> 私の学校の伝とう行事

彦根市立旭森小学校 4年 上川 琉花

私の通う旭森小学校には、六年生になるとマーチングを全員でします。昔は、たくさんの小学校でマーチングをしていたそうですが、今は、マーチングをやっている学校は、何校かしかのこっていないと聞きました。

私が初めてマーチングを見たのは、小学校に入学してからです。保育園でもこ隊をしたけど、六年生のお兄さんやお姉さんがするマーチングは、はく力があってすごくカッコよかったです。とくに私が心にのこっているのは、私のお姉ちゃんが六年生のときに家族で見にいった「城まつりパレード」です。旭森小学校や、他のマーチングをやっている学校や、子ども大名行列や、馬に乗ったおとの様などが、彦根城の近くを歩いていました。コロナで何年か中止になっていたのも、私がしっかり見たのは、そのときが初めてでした。歩きながら、楽器をえんそうしたり、バトンを回したり、旗をふったりしていたのが、すごくカッコよくて私も六年生になったら出来るかなと思いました。

お母さんに聞いたら、お母さんが六年生の時も城まつりパレードがあって、マーチングで出たそうです。お母さんが、「彦根には彦根城があるから、城まつりパレードは彦根ならではの行事なんやで。」

と言っていました。私は、お母さんが六年生のときにもあったマーチングが私の学校で、まだ今も続いていることにす

ごくびっくりしました。お母さんの行ってた小学校では、もう教える人がいなくてマーチングがなくなったそうです。

「すごくざんねんだね。」

とお母さんは言っていました。私はそれを聞いて、もっとマーチングが楽しみになりました。なぜかという、私の学校はまだなくならずにずっと続いているからです。それがとてもすごいことだと気づいたからです。教えてくれる先生や、いろんな人の思いで、ここまで長く続いているんだなと思いました。

私がマーチングをするのは、もうすこし先になるけど、私はバトンをやりたいと思っています。なぜなら、私のお姉ちゃんもバトンをしていて、速く回してるのがカッコいいと思ったからです。私は、マーチングや城まつりパレードがこれから先も続いていけばいいなと思いました。



<入 選> あのベンチ

彦根市立稲枝東小学校 2年 吉田 星菜

わたしは、ひこねしにすんでいます。その中で一ばんすきなばしょは、あのベンチです。大きな木のところにただひとつおかれている手づくりのベンチがあるからです。

わたしは、はじめてほいく園の時にきました。そこにすわると、前にはびわこがよく見えて日によってはびわこのなみがおだやかな日もあれば、あらい日もありふしぎです。人にも気分がいい日もあればそうじゃない日もあるのと同じかんじだと思いました。ひこねしの中でも、ゆう名なばしょの一つでちがうけんからもたくさんの人が来て、車やバイクといっしょにしゃしんをとっています。ウエディングドレスをきてとっている人も見たことがあります。わたしもそつ園しきの日、思い出のばしょとしてしゃしんをそこでのこしました。大きくなっても大切な日の思い出にのこるからです。わたしは、一ばん夏の夕やけ空とびわこがとてもすてきなので、夏の夕方によく行き、しゃしんをとってもらいます。春夏あきふゆ、またけしきもかわり、ほんとうにいいばしょで、いつのきせつに行ってもたのしむことが出来るのでわたしはすてきななあと思っています。

びわこのすなはまで、いくつかのきれいなガラスを見つけました。水色やとうめい、きれいな色んな形をしていました。ベンチによく来ているおじさんが話してくれました。

「それはびわこガラスだよ。」

と言って、教えてくれました。そのガラスにも名前があり、ベンチが出来たことなど色々聞くことも出来ました。

せかいにたった一つしかないあのベンチ、ずっと大せつなばしょにしたいです。これからもあのベンチにたくさんの人がたくさんの思い出をつくりに来てほしいと思いました。



<入 選> みんなの彦根

彦根市立金城小学校 3年 堀 咲恵

わたしは、夏休みに川の生き物かんさつ会に行きました。お兄ちゃんが、とても生き物が好きなので行くことにしました。

かんさつ会では、生き物の行動やかくれやすい場所を教えてもらって自分たちで魚や水の中のこん虫をつかまえました。川の水が思ったよりもつめたくてびっくりしたけど、とてもあつかったので気持ちよかったです。

川には、たくさんの生き物がいました。小さいハゼのなかまがいました。アユは、とても速くてわたしはつかまえられませんでした。わたしとお母さんが、川の石を動かすと、小さなゲンゴロウのなかまがでてきてかわいかったです。

かんさつ会のさいごにみんなでつかまえた生き物を、先生がしょうかいしてくれました。その中で気になったのはハリヨです。わたしは、ハリヨがぜつめつしそうというお話を聞きました。ハリヨは、金色で小さくてとてもかわいかったです。こんなに小さい生き物がすむ場所がないなんて、ふしぎだなあと思いました。ハリヨは、わき水のある夏でもつめたい川じゃないと生きられません。そういう川はめずらしいと聞きました。今も工事でへっています。このままではハリヨがいなくなっちゃうから、自分に出来る事はしたいです。前まで、生き物たちがこまったり、がんばったりして生きていると知らなかったから、かんさつ会に行ってよかったと思いました。

わたしの住んでいる彦根市は、生き物がいっぱい、きれいな川や山があって好きです。これからも魚がいっぱいで、ハリヨはわき水が好きなのでわき水もいっぱいの、ハリヨも人も動物も虫もみんなが住みやすい彦根だったらいいなと思います。



<入 選> 小泉町の伝統

彦根市立城南小学校 6年 松嶋 由華

私の住む彦根市小泉町には、小泉幌おどりという伝統行事があります。

小泉町には、水に関連する史実があります。この地域では井戸を多く掘り、田植えをしていましたが、日照りが続くと早魃に見舞われることがあり、川も干しあがりました。村人は林泉と呼ばれる龍神さまがすまわれていると信じ、祠を建てて雨乞いおどりをおどりました。その雨乞いおどりというのが、幌おどりです。幌おどりには、五十年以上の歴史があり、彦根市の無形民俗文化財の指定を受けています。その保存と継承のために、私たち友情子ども会が毎年七月の第二日曜日に八王子神社で幌おどりを奉納しています。

私は、幌おどりに三年生のころから毎年参加していました。三年生になって初めて幌おどりに参加したとき、同学年の友達といっしょに、自分よりも学年が上のお姉さんや、地域の方々におどりを教えてもらっていました。そして、自分の学年が上がるにつれて、自分よりも下の学年の子が増えていって、人数も増えていき、みんなで練習しているうちに、みんなが友達になり仲よくなりました。地域の方々や他学年の子との交流ができるととてもいい体験ができました。

幌おどりは、雨乞いおどりなのですが、手おどりのふりつけの中に手をふりおろすふりがあります。それは、村の人たちが雨が降ってほしいという思いでこのようなふりになったのかなと思いました。だから、幌おどりをおどるとき、村の人たちの思いをこめておどりたいと思いました。

このように、幌おどりは雨が降ることを願った雨乞いおどりで、彦根市の無形民俗文化財に指定されています。その保存と継承を友情子ども会が担っているのです。これからも、たくさんの人が幌おどりに参加して、次の年へ、バトンをつないでいってほしいと思います。また、子ども会に入る人も少なくなっていく、幌おどりに参加する人も減っていくと幌おどりがなくなってしまうと思います。私たちは幌おどりがたくさんの人に知られ、参加する人を増やすために、取り組んでいます。

例えば私は、子ども会でかべ新聞をつくったことがあります。そこに、幌おどりを練習している写真と説明、本番幌おどりを奉納している私たちの写真などをはりました。それを城南小学校にはりました。すると、いろんな学年のたくさんの人に読んでもらうことができ、幌おどりのみ力が伝わったと思いました。

小泉町には、幌おどり以外にも素てきなみ力がたくさんあります。これからも、小泉町の伝統を大切に守っていきたいです。



中学生広場「私の思い2024」作文

<特 選> 私のランドセル

彦根市立東中学校 1年 江口 果凛

『ランドセルは海をこえて』これは小学校の国語科の教科書に載っていた話の題名です。

アフガニスタンに住む子どもたちに、日本の子どもが使ったランドセルを送る、という話です。ランドセルは軽くて丈夫です。さらに、教室がなく、机さえないところでは、机代わりにすることもでき、とても重宝されるそうです。

この話を読んで、私もランドセルを送ってみたいと思いました。

私は、近所のお姉さんからおさがりの服やカバンをもらうことがあります。お姉さんの服は大人っぽくて、もらった時には、私がお姉さんになったかのように感じます。普段よりも少し背伸びをして、素敵な人になれたような感覚です。汚れやしわがほとんどなく、大切に着ていたのだと分かる服を譲ってもらい、私も大切に着たいと思っています。

私も、自分の小さくなった服をおさがりとして誰かに譲るときには、買ってもらった時のことや、この服を着て出かけた時の思い出を振り返ります。そして、「喜んでくれるだろうか」「似合うだろうか」と考えながら、丁寧にたたんで袋に詰めます。きっと、私におさがりをくれるお姉さんもこんな気持ちなのかもしれないと思うと、より一層「おさがり」が大切なものであるように感じます。

お店に行けば、新品の服がたくさん売られています。ファスト

ファッションという言葉があるように、驚くほど安く売られている商品も多く、簡単に新しい服が手



に入ります。

たしかにおさがりは元の持ち主によって使い古され、新品としての価値は少ないかもしれませんが、おさがりには「自分が大切にしてきたものを、この子に譲りたい」という相手を想う気持ちも込められています。私の次にこの服を着ることになる相手にもまた楽しく幸せな時間を過ごしてほしいと思うのです。

おさがりは、まだ使えるものを無駄にせず、に再利用するだけではなく、思いも一緒に、次へつなげることでできる素晴らしい文化だと、私は感じています。

私のランドセルは、入学のお祝いに祖父母に贈ってもらったものです。ころんとした丸い形がかわいく、控えめな刺繍も気に入り、大切に使っていました。嬉しいことがあった日も、嫌なことがあった日も、毎日私はこのランドセルを背負って小学校に通ってきました。だから、思い出がたくさん詰まったランドセルとお別れするのは寂しいです。でも、私の大切なランドセルを、また次の誰かに大事に使ってもらいたいと思ってアフガニスタンへ贈ります。

アフガニスタンは紛争が絶えず、十分な食べ物もなく、勉強することもままならない状況です。生きていくための物資も必要とされていますが、それだけではなく、「思い」もランドセルにこめて贈りたいと思っています。

アフガニスタンの環境を良いものとなるように整えることは、私の力だけでは難しいです。だからといって諦めたくはありません。私が六年間、学校に通い、今もこうして楽しく学校生活を送れているように、アフガニス

タンの子どもたちも、毎日学校に行けますように。そんな願いを、一緒に贈ります。

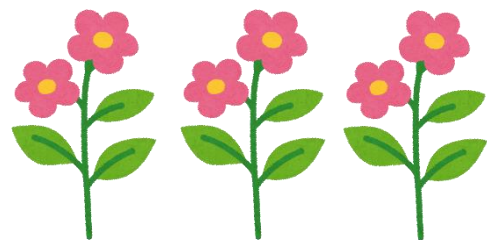
ランドセル一つを送ることは、本当に小さなことでしかありません。

それでも、私のランドセルを使って勉強することで、誰かの人生が変わるかもしれない。

その子の活躍で、周りの人たちにも変化があるかもしれない。

そうやって、たった一つの「私のランドセル」でアフガニスタンが平和な国になり、みんなの幸せにつながってほしいと思います。

私のランドセルが海を越えて、誰かの大切なランドセルとして使ってもらえますように。



<特 選> ぼくはこういう話し方やねん

彦根市立西中学校 1年 成宮 太智

今年の四月に中学生になりました。新しい生活を始める時、初めての場所に行く時、必ず不安になる事があります。

ぼくは、三歳の頃にやっと単語という言葉が言えるようになってから、吃音が出てきたそうです。自分では全然気づかなかったのですが、小学校に入った時に、新しい友だちに、

「何で、そんなしゃべり方するの?」と言われてたり、「あ、あ、あ・・・。」と話し方を真似されたりした時がありました。その時に自分の話し方がみんなと違うことに気づきました。それから、同じ友だちに何度も聞かれることが嫌だったし、聞いてきても何て答えればよいか分かりませんでした。しかし、しばらくして母が「タチの話し方について何か言ってくる友だちいない?」と聞いてきました。それで、聞かれたことや真似してくることを話すと、「それは、タチの話し方だから、『ぼくはこういう話し方やねん』と言ったらいいんやで。」と教えてくれました。それからは、聞いてきた友だちには、すぐにそう答えるようにしました。すると、不思議とそれ以上聞いてこなかったり、「そうなんやー。」と受け入れてくれてる気がしました。後で母に聞いた話ですが、ぼくが小学校に入学した時から嫌な思いをしたり、からかわれないように兄や姉がしっかり見守ってくれていたそうです。

けれど、何よりもうれしかった事は、新しい友だちもだんだんぼくの話し方を気にせず、「ぼく」という一人の人間と仲良くなってくれているのが分かったことです。そして、ぼくは、明るくて元気で運動も人一倍得意で、友だちと話す事も大好きな性格です。そんなこともあって、自然に友だちが集まってきてくれるのもぼくの長所です。

しかし、小学校では授業ごとに発表があったり、一人ずつ発表する場も増えてきました。そんな時は、家で困った事など話すと、家族

が良い方法を見つけてくれます。どうしたらスムーズに言葉が言えるか、どんな言葉なら言いやすいか。今でも自己紹介や自分の思いを言葉にして話す授業は緊張して言葉が出てこなくなる事もあります。けれど、言葉の初めに「えっと・・・」と付けると少し言いやすくなったり、自分なりに言えるように工夫して発表できるようになってきました。何よりも自分が吃音だという事を隠さず、自然に友だちや先生に言えるようになった事でどんな時も大丈夫だという事もわかりました。始めは吃音ということで話し方がはずかしかったこともありましたが、それを家族が笑いに変わってくれたり、深刻な悩みにならないようにしてくれていることもわかりました。母も、「タチは吃音なんか気にしなくていい。タチは誰よりも何でもがんばってるやん。みんな、そっちをちゃんと見てくれているから。」と言ってくれて、自分自身に自信を持つ事ができました。中学校に入学した時も、不安な気持ちもありました。けれど、今までの友だちがいてくれるから何も気にせず今を過ごしているように思うし、新しい友だちも今の所は何も聞かずに接してくれていてうれしいです。今、自分の話し方を聞いてくる友だちがいたとしても、「ぼくはこういう話し方やねん」としっかり答える事ができると思います。

きっとこれから先も、吃音である事で、たくさんの壁にぶつかる事もあると思います。しかし、自分を隠したり消極的にならず、悩んだ時は、家族や先生、友だちに相談して自分自身に自信を持って過ごしていけるようにしたいと思います。

<入 選> 笑顔のちから

彦根市立南中学校 1年 石橋 明莉

私のモットーは、どんなときも元気に明るく笑顔で人と接することだ。笑顔は人を幸せにする力があると思っている。しかし最近、笑顔になれないことがあり悩んだ。

中学生になり、スマホを持つようになった。はじめはうれしくて、友達とメッセージトークを楽しんでいた。しかし、忙しい毎日の中で、メッセージトークにつかれてしまうこともあった。例えば、ある日グループトークが盛り上がっていたが、私は塾に行かなければならなかったためトークから抜けた。その後も続いていくトークにさびしさを感じた。塾が終わり、急いでスマホを見ると、自分に問いかけられたメッセージを見つけた。しかし、時間が経っていたため、私が無視をしたような状態になってしまっていた。返信しなかったが、話題も変わりトークが終わっていたため、それきりになってしまった。このような行き違いから、私は少しつかれてしまった。

翌日、学校へ行き、いつものようにあいさつをしようとしたが、何となくぎこちなさを感じた。笑顔にはなれず、これまで大切にしていた明るさや元気も出せなかった。友達は何事もなかったかのように普段通り接してくれたが、私の気持ちはスマホの中に置き去りになっていた。この時、お互いの顔を見て会話をする事の大切さを痛感した。会えない時間に趣味や写真などを共有できるスマホは確かに便利だ。しかし、スマホの中の時間を大事にしようとすると、スマホから抜け出せなくなってしまう。さらに、抜け出そうとすれば、今度は不安を感じてしまう。私はこの悪循環から脱出する必要性を感じた。スマホの中に自分の気持ちを置き去りにしないためにも、目の前にある今この瞬間を大事にしたいと思った。中学生となり新たに広がった景色をもっとたくさん見たい。新しくできた友

達とたくさんのかたちを経験したい。毎日を明るく笑顔で過ごすために大切なことを、ひとつひとつ選ばなければいけないと思った。何よりも、お互いの顔を見て会話をする事を大切にしよう。泣いたり笑ったり、一瞬一瞬を大事にしよう。スマホというフィルター越しの景色ではなく、充実したリアルを心のメモリーにたくさん残したい。

私は人と関わるのが大好きだ。人前で話すことも得意である。だからこそ、もっとたくさんの人と関わりたい。積極的に中学生生活を楽しみたい。部活動もそのひとつだ。私は全く経験のないソフトテニス部に入った。これは、私の挑戦だ。周り比べて明らかに下手な自分に涙が出る。悔しくてくじけそうになる。時には、仲間の視線を辛く感じることもある。それでも、先輩や友達の笑顔に何度もはげまされた。「今の上手!」「いいよ!」そう言ってもらえると、力がわいた。自分に負けたくない。そう思い、歯を食いしばることができている。へとへとになり疲れて帰る毎日。自然とスマホを見る時間が減った。グループトークに参加できなくても、以前ほど気にならなくなった。目まぐるしい毎日に、正直なところ、朝はもっと寝たいと思う。学校までの道のりも遠く、授業も難しい。部活もしんどい。それでも、毎日を大切にしているうちに、笑顔を取り戻すことができた。先生や友達、部活仲間と過ごす毎日がとても楽しく、たくさんの笑顔に囲まれている。そうした日々が幸せだ。給食の余りものジャンケンに勝てた日は最高だ。私はこれからもずっと、笑顔を大切にしていきたい。笑顔は、自分をも幸せにする力があるからだ。

<入 選> 支えてくれている人への感謝

彦根市立中央中学校 2年 安井 瑞希

私は今、支援学級に通っています。小学六年生の時に病気になり、非常に強い腰の痛みが続いて、徐々に歩くことが困難になりました。それだけではなく、歩けなくなってくると、今度は立ち上がることも座る姿勢を保つことも難しくなってきました。腰が痛くて横になって寝転んでいる時、自力で体を起こすことができない。そんな生活になり、今まで当たり前に行っていたことができなくなった悲しみ、自分の体が自分の体ではなくなったような感覚、現状を受け止められないくらい立ちや不安な気持ちでいっぱいになりました。

そして、私の生活は一変しました。学校に行く時など外出する際は車いすを使い、家の中では、家族に体を支えてもらいながら生活し、リハビリにも通い始めました。

リハビリは、非常に強い腰の痛みが続く私にとっては、なかなかハードなものでした。なぜかわからないけれど、体の動かし方がわからなくなってしまった私の体。リハビリでは、寝返りの練習から始まりました。リハビリを始めたからといって、すぐに動けるようになったわけではないけれど、くり返しあきらめずにリハビリを続けていくことで、中学一年生の夏休み明けに、自力で立ち上がり、ほんの少しだけど、つかまりながら歩くことができました。私は、喜びとうれしきでいっぱいでした。

中学二年生になった今、リハビリでは、筋力をつけるための運動や体の柔軟性のためのストレッチなどを行っています。このリハビリも、くり返しあきらめずに続けていくことで、ロフストランドクラッチという杖を使って少し歩けるほどにまで回復しました。今まで当たり前に行っていたので、歩けるということが、とても楽しく、幸せなことだと初めて気がつきました。

また、今はほぼ毎日学校に通うことができ

てうれしいです。一時期、学校に通うことができず、思うように勉強ができなくて、みんなについていけるか不安でした。今は、学校に通い、授業を受けることができて本当によかったです。しかし、まだ少しの時間しか学校に通えていません。腰の痛みが強くて、午前中の授業を全て受けることも、今の体調では難しいです。だから、腰の痛みが限界にくるころにはいつも早退しています。私の目標としては、中学二年生のうちに午前中の授業を全て受けて、給食を食べることです。早退する時によく給食のおいしそうなおいがするので、いつかは食べてみたいと思っています。それと、病気になってから友達となかなか会うことができていません。会いたいと思う反面、しばらく会えていないので少し会うのがはずかしいと思う気持ちもあります。でも、仲の良かった友達と会えばきっと、会えなかった時間の長さを感じさせないくらい笑顔で楽しく話せるのではないかと思います。

今、私が腰が痛くても、楽しく過ごせているのは、家族やリハビリの先生、学校の先生方が支えてくれているおかげです。特に母は、私が自分でできないことを介助してくれたり、移動を手伝ってくれたり、私がつらい時にはげましてくれたりするなど、私の生活をたくさん支えてくれています。そんな母に、感謝してもしきれません。過ごしやすい環境を整えてくれた学校の先生方、自立した日常生活を送れるように支援してくれるリハビリの先生、一番近くで私を支えてくれている家族に、私は、心から感謝しています。これからも、支えてくれている人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、精いっぱい充実した日々を過ごしていきたいです。

<入 選> 感謝の気持ちを忘れずに

彦根市立西中学校 3年 北原 令和

よく、スポーツ選手のインタビューで、「これまで関わってきた全ての人に感謝をしたい。」

と言う人を見かける。スポーツだけに限らず、誰かに物を借りたときや、誰かを助けたときなど「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉でしっかりと伝えられる人は素敵だと思う。

あなたが過去に「ありがとう」と言われた時のことを思い出してみてほしい。その時、どのような気持ちになっただろうか。きっと嫌な気持ちになったと答える人はいないだろう。私も、誰かから「ありがとう」と感謝されると、「自分が役に立った!」「相手に認めてもらえた!」と喜びと同時に、やりがいと達成感を感じることができる。

このように、日常生活の様々な場面で使う「ありがとう」という言葉。果たして自分はどれだけ使えているだろうか。改めて、振り返ってみることにする。

学校に行くと、友達がいって、一緒に会話を楽しむ。母は家のことで忙しい中、私の習い事のために送迎をしてくれる。父は朝早くから夜遅くまで、一生懸命働いてくれている。これらは全て当然のことなのだろうか。「いつものことだし・・・。だから当たり前なんだ。」そう思ってしまう自分がいた。しかし、本当にそうだろうか。私が楽しく過ごせるのは、友達が仲良くしてくれているからだ。私が好きな習い事に行き、思う存分練習できるのは、父や母が仕事をし、送迎をしてくれているからだ。そう考えたとき、私はみんなに支えられているのだと気づいた。それと同時に、感謝しなければならなかったことがたくさんあるのに、直接感謝の気持ちを伝えられていないことにも気がついた。

私が小さい頃、母から、「身近な人ほど感謝しなさい。」

と言われたことがある。私は今まで照れくさいから、恥ずかしいからと言い訳をして、家族にはなかなか感謝の気持ちを伝えられずにいた。私がここまで快適な生活をしてこれたのも、家族のおかげだ。母のこの言葉を改めて考えてみると、いつもお世話になっている家族にも、「ありがとう」と伝えていきたいと思う。ただ、「ありがとう」と言うのではなく、普段から言えていないからこそ理由もそえて、

「いつもご飯を作ってくれてありがとう。」

「忙しい中、送迎をしてくれてありがとう。」

と笑顔で伝えられるようになりたい。

また、他の視点で考えてみるとどうだろうか。私たちは、毎朝起きて食事をする。きれいな水を飲むことができる。しかし、他の国を見渡すと、現在でも戦争や紛争、自然災害等で苦しんでいる人たちが大勢いる。こうして今の日常生活を送れていることが、どんなに幸せで有り難いことか、身をもって実感する。「何もかもが当たり前ではない」このことを認識して、人だけでなく、この恵まれた環境や物にも「ありがとう」という気持ちを持って過ごしていきたい。

「ありがとう」

この言葉には、言う側も言われた側も幸せにする力があると思う。私はこの一年、受験生として進路選択という大きな壁に立ち向かう。これから、ますます周りの人から支えてもらうことが増えるだろう。そして、高校、大学、社会人・・・生きていくうえで、支えてもらわないことはないと思う。そんなとき、面と向かって、感謝の言葉を伝えられる自分で在りたい。これまでの十四年間の感謝の気持ちを「ありがとう」にのせて、家族や友達など、日々そばにいて支えてくれる全ての人に、伝えていこうと思う。

<入 選> 自分らしく生きるために

彦根市立鳥居本中学校 3年 小崎 愛音

さまざまな社会問題がある中で、私はLGBTQに目を向けた。LGBTQとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニングの、頭文字をとった言葉で性的少数者を表す総称の一つとして使われる言葉だ。

日本におけるLGBTQの割合は、現在では約3%~10%といわれている。少し他の人と考え方が違うだけで「普通じゃない」と差別されるのは、何故なのだろうか。女性は男性を愛し、男性は女性を愛す。これが普通で当たり前とされてきた。その誰かが決めた訳でもない当たり前を人に押しつける事により、おしつけられた側が苦しい思いをするのはとても理不尽だと私は思う。人と少し違うだけで、いじめの標的にされたりし、自ら命を絶ってしまう人も少なくはない。私の周りにもトランスジェンダーの知り合いがいる。男性の体なのだが心は女性で、小さな頃から自分の思いを隠しつつ生きてきたらしい。男の子がスカートをはくのはおかしいなどといった社会的概念により、自分が好きなものを好きといえず、ありたいように生きる事が出来なかった気持ちを私に相談してくれたのだ。このような苦しい思いを相談できる人は、なかなかいないだろう。否定され続けてきた人は、相手を信じることにとても抵抗があると思う。自分をまた否定されるのが怖いからだ。そのため、自分の思いを殺しつつ、限界を迎えてしまい、自ら命を絶ってしまう人がうまれるのだろう。

そんな人が多い中、あの子が勇気を出して私に相談してくれたのはとても嬉しかった。あの子の相談を聞いている中で、ひとつとても共感する事ができる言葉があった。「生きづらい」という言葉だ。生きづらいと感じるのは性的少数者だけではないはずだ。周りに否定されるから、ばかにされるから、理解して

もらえないからといったさまざまな理由で、好きなものを好きと言えなかったり、自分の思いを隠して苦しい思いをしていたりする人はたくさんいると思う。生きづらさの大きな一つの原因は「こうでなくては」と固定概念に縛られていることにある、という記事を読んだ事がある。私はこれにとても共感できた。さきほどの話でもそうだ。〇〇はこうでなければならないという社会的概念にとらわれ、苦しんでいる人がたくさんいる。特に若い世代はまだ心が子供で、大人に比べ、事の善悪を理解してない人が多い。そのため無意識のうちに相手を傷つけてしまっている。若者の死もNo.1が自殺なのもこれらが原因の一つだろう。

私達日本人は他の国に比べ、思いやりをもてる人が多く、比較的平和な国だと思う。しかし、こんな日本でも、LGBTQやそれ以外の社会的概念により苦しめられている人はたくさんいる。みんな違ってみんないい。この言葉をもっとみんなにわかってほしい。みんなが自分らしく生きていける世界をつくっていくには、社会的概念にとらわれず、互いに認め合うことが大切だと思う。普通など人によって違うのだ。その事をもっとみんなが理解し、誰かが社会的概念により苦しむことのない世の中をつくるために、まず自分自身が社会的概念にとらわれず、多様性を認めていけたらいいと思う。

皆がそれぞれ笑顔で、自分の好きを主張することができる世の中になることを、私は願う。

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」
 (家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター

特 選

かぞくでいったプール



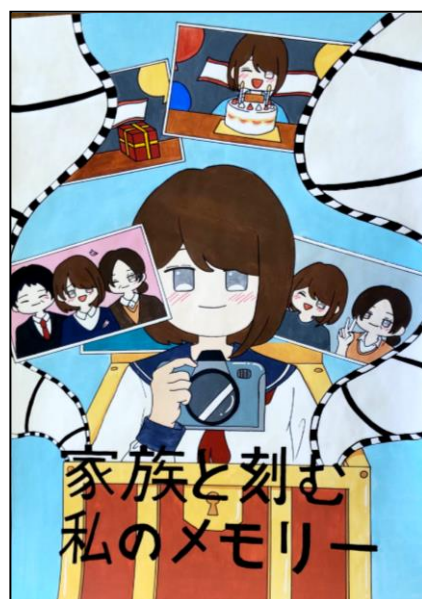
彦根市立河瀬小学校 1年 寺居 凜風

家ぞくと夏まつり



彦根市立金城小学校 3年 北村 紗菜実

家族と刻む 私のメモリー



彦根市立西中学校 3年 門池 菜々美

入 選

わたしのだいすきなかぞく



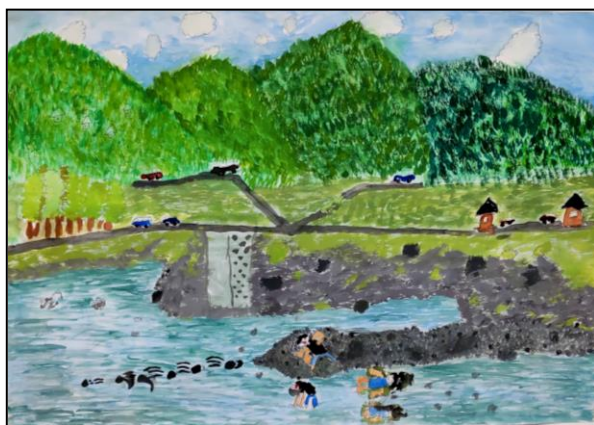
彦根市立河瀬小学校 1年 形部 里紗

プールに行ったよ



彦根市立城西小学校 2年 菊本 遥日

ぼくの夏休み



彦根市立城南小学校 3年 新子 大慍



ぼくの家族のあったかい食たく



彦根市立金城小学校 4年 上坂 玲葵



家族で一緒に食べるとおいしい



彦根市立西中学校 3年 西村 珠里

あたたかい未来のためにもっと話そう



彦根市立鳥居本中学校 3年 魚住 咲月

「わたしのふるさと」 絵画

特選

高宮の花火大会



彦根市立佐和山小学校 2年 寺村 拓海

けやき道



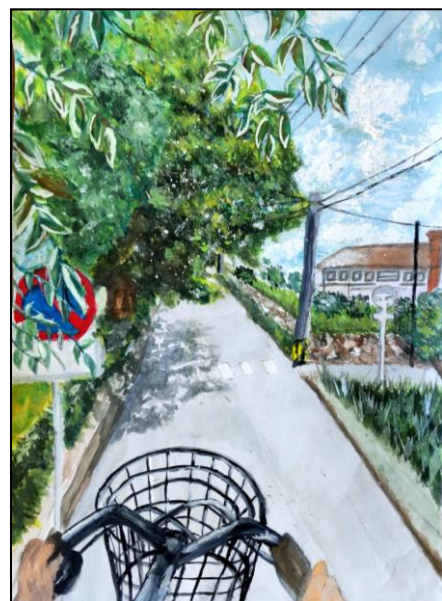
彦根市立城南小学校 3年 西山 梨央

真夏の南彦根駅



彦根市立城南小学校 6年 山田 淳紘

私の通学路



彦根市立稲枝中学校 1年 伊藤 二胡

入 選

カラフル ひこねじょう



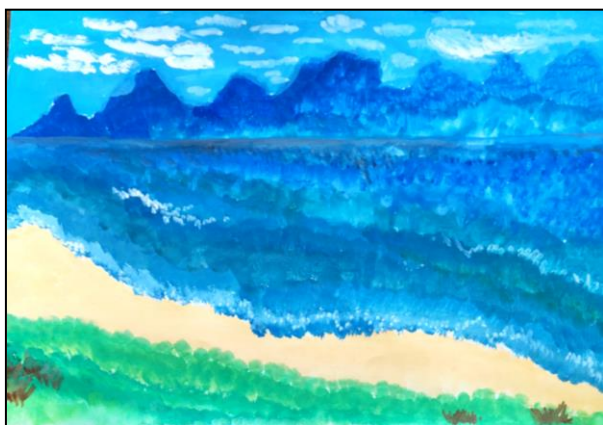
彦根市立旭森小学校 1年 中野 咲希

十王村の水に住む梅花藻と生き物たち



彦根市立城南小学校 2年 木村 迅杜

かがやく びわ湖



彦根市立城東小学校 4年 國枝 奈乃葉

楽しいな夏祭り



彦根市立稲枝西小学校 4年 大塚 龍心

芹川から見る夕日



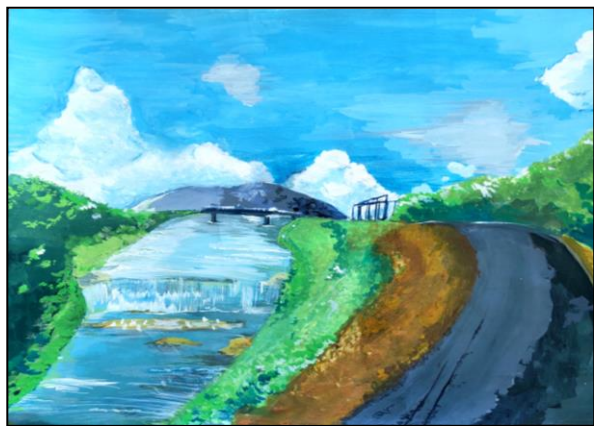
彦根市立城西小学校 5年 毛利 優太

赤玉神教丸



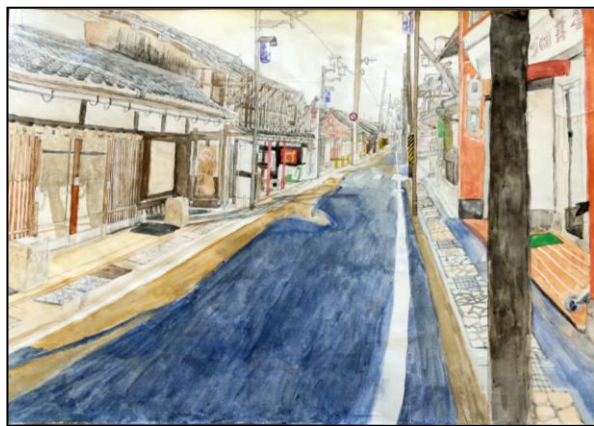
彦根市立鳥居本小学校 5年 小嶋 寧々

ふるさとの川



彦根市立稲枝中学校 1年 脇阪 瑠那

思い出の花しょうぶ通り



彦根市立西中学校 3年 杉本 ちひろ



佳作入賞者一覧

「わたしのふるさと」作文

大すきな城東の町をにぎやかに	城東小学校	3年	與那 新
わたしのすむまち	稲枝西小学校	3年	藤井 沙織
ぼくのすきな商店街	城東小学校	4年	横田 磨拓
ぼくが水力マキリをつかまえるまで	金城小学校	5年	堀 正裕
私のふるさと	城北小学校	6年	小堀 美侑
伝統あるマーチングバンド・応援合戦	旭森小学校	6年	木元 怜

中学生広場「私の思い 2024」作文

仲間と協力し、あきらめない力	中央中学校	1年	田上 結楽
ふつう	東中学校	2年	竹田 梨央奈
勉強と水泳の両立	東中学校	3年	岡山 杏奈
当たり前	中央中学校	3年	諸川 風
「無意識の偏見」をなくすために	鳥居本中学校	3年	土田 瑚珀

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」(家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター

あさがおのかぞく	城東小学校	1年	西澤 瑞月
かぞくのみんなで	金城小学校	1年	堤 翔一郎
じゃがいもをしゅうかくしたよ	城西小学校	2年	國領 結菜
ひまわりばたけとおにいちゃんとわたし	城南小学校	2年	塚本 瑚々渚
わたしのかぞくのすきな物	城北小学校	4年	ガース メノリ
我が家の思い出	西中学校	2年	内海 諒成
家族と過ごす熱い時間	西中学校	3年	植田 葵衣

「わたしのふるさと」絵画

きれいなひこねじょう	平田小学校	1年	三宅 陽大
びわこであゆがおよぐ	城東小学校	2年	岩屋 志穂
私の自慢の彦根城と花火	城南小学校	3年	浅賀 萌生
ぼくの通学路で見る旭森の芹川	旭森小学校	4年	中野 勇士
うみのこから見た彦根城	城西小学校	5年	中村 仁乃
わたしの好きなスポット	城東小学校	6年	北村 実瑚
いつもの川	河瀬小学校	6年	佐々木 春瑠
ふるさと とりいもと	鳥居本小学校	6年	川部 穂岳
大好きな母校	稲枝中学校	1年	寺井 千恵莉
公園までの道	西中学校	3年	辻 佳奈恵

審査員紹介

審査は次の方々をお願いしました。(敬称略)

「わたしのふるさと」作文

元小学校長	藤井 純子	彦根市青少年育成市民会議 副会長	松宮 幸彦
稲枝北小学校 校長	北村 里美	彦根市少年センター 所長	柴田 雅章

中学生広場「私の思い 2024」作文

元小学校長	藤井 純子	彦根市青少年育成市民会議 副会長	松宮 幸彦
稲枝中学校 教頭	西山 久美子	彦根市少年センター 所長	柴田 雅章

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」(家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター

元小学校長	小野 淳	彦根市青少年育成市民会議 会長	林 治
元小学校長	加藤 洋一	彦根市少年センター 所長	柴田 雅章

「わたしのふるさと」絵画

元小学校長	小野 淳	彦根市青少年育成市民会議 会長	林 治
元小学校長	加藤 洋一	彦根市少年センター 所長	柴田 雅章

★★ あとがき ★★

今年度の入賞作品集を刊行するはこびとなりました。

彦根市内の小学生・中学生の皆さんより作文、絵画、ポスターに多数の応募をしていただき、感謝申し上げます。

審査会では、自分の体験をもとに書いてある作文はやはり心に伝わるものがあり、中学生になるとテーマが多岐にわたり、自分の考えをしっかりと持って生活していることに頼もしさを感じたという意見がありました。また、絵画・ポスターにおいては、素直な心で絵に向かい、きちんと丁寧に描かれた作品が多いということでした。

紙面の都合で、特選・入選作品のみの収録となりましたが、多くの
方々にご覧いただけるよう願っております。

